UNIVERSITY OF MIYAZAKI
Future Vision for 2040

宮崎大学
未来Vision for 2040

持続可能な未来社会に向けて宮崎をリードし
日本･世界に貢献できる大学を目指す

世界を視野に　地域から始めよう！
Look at the World , Start with the Community

宮崎大学
University of Miyazaki

2021年7月

目 次

はじめに ・・・ 1

宮崎大学 未来 Vision for 2040の策定の背景と概要・位置付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

１．教育

・新たな未来社会に対応し活躍できるリーダーを育てる教育の展開 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

・地域社会との共創で展開する新たな教育の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

・多様性の時代に必要な国際性を育む教育プログラム等の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

・学生を第一に考えた学生支援の提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

２．研究

・宮崎大学の強み特色を活かした地域共生社会の実現に向けた研究推進 ・・・・・・・・・ 9

・新たな未来社会に繋がる革新的な研究・技術開発への挑戦 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

・地域共生社会の実現のために地域と共創する連携研究の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・10

・日本の未来を支える卓越した若手研究者等の育成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

・全学的な研究支援体制の改革 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

３．医療（附属病院）

・地域の特定機能病院としての機能強化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

・病院経営の基盤強化と安定した医療提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

・地域との共創で実現する地域医療と県民健康水準の向上 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

・地域との共創で実現する医療分野のイノベーション創出 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

４．地域貢献

・地域と共創する持続可能な未来の宮崎づくりへの貢献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

・地域と共創する地方創生への貢献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

５．国際貢献

・宮崎大学の強み特色を活かした途上国との連携と国際貢献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

６．管理運営

・新たな未来社会をリードする戦略的・機動的な大学運営の確立 ・・・・・・・・・・・・・・・18

・安定的な財務基盤の確立と戦略的な施設整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

はじめに

持続可能な未来社会に向けて宮崎をリードし、
日本・世界に貢献できる大学を目指す

宮崎大学長
池ノ上　克

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンを掲げ、地域に根ざす国立大学法人としてのミッションを担い、特色ある教育・研究・地域貢献、国際連携などを行い大学改革に取り組んで参りました。

第３期中期目標・中期計画の６年間でも地域に軸足をしっかりと置いて、地域の様々な組織や団体との間に良好な関係を構築して参りました。 その結果、多種・多様な取り組みが実行でき、地域の総合大学として、大きな成果が挙げられました。

しかしながら、最近では、地球規模で多様化し複雑化した課題が顕著化して、時代は大きな変革期に突入しました。直面する課題の解決や新たな未来社会の創造には、「知識」の集約と新たな価値の創成が必要です。そのため、国立大学の役割はこれまで以上に重要となり、社会を牽引・創造するリーダーとしての役割が求められます。

宮崎大学は、宮崎の創造をリードする大学として、また、日本・世界に貢献できる大学として、持続可能な社会の構築、及び地域共生社会の実現に向けて活動を続けて参ります。

このたび、宮崎大学が今後取り組んでいくべき方向性として「宮崎大学未来Vision for 2040」を取りまとめました。本ビジョンの実行・実現にあっては、宮崎県民の皆さま、産業界、経済界、自治体など、多くの組織や団体の皆様のご理解とご協力とご支援が必要です。今後ともより一層のご協力等を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

宮崎大学 未来 Vision for 2040の策定の背景と概要・位置付け

2040年の日本は、少子高齢化問題が特に深刻化すると言われており、18歳人口も，約88万人に減少し，現在の 7 割程度の規模となる推計が出されています。

また、2040年の新たな社会は、私たちが想像もできないような社会となっているかもしれません。しかしながら、予測不可能だからこそ、社会全体で知識を創出し、それを組み合わせて新しいものを生み出していく力が、新たな社会の支えとなると考えられています。

そして、国は、新たな社会変化の方向性として、持続可能な開発のための目標（SDGs）、Society5.0・第4 次産業革命、人生100年時代、グローバル化、地方創生の５つを挙げており、それらに向けて様々な取り組みを一歩ずつ実行し始めています。また、本学がある宮崎県においても地域特有の課題も含め様々な取り組みが行われています。

このような背景の下、高等教育機関には、「新たな社会に対応し、社会を積極的に支え、社会を改善できるリーダー人材」の輩出や、多様で卓越した知による「イノベーション創出」や「科学技術の発展」、地域共創による「新たな社会・経済システムの提案」が求められているところです。

宮崎大学では、2019年4月1日に、学長・理事・各学部等教員・事務職員等、計１３名で構成する「将来構想委員会」を設置し、2019.4.23～2019.12.20の間　計７回の会議を開催して、宮崎大学の将来構想やビジョンの立案、宮崎大学の理念・目的等について、検討を重ねてきました。

将来構想委員会では、教育・研究・医療・地域貢献・国際貢献・管理運営のカテゴリー毎に様々な忌憚ない意見が出され、それらの意見を集約して、最終的に右（３頁）に掲げる『宮崎大学未来Vision for 2040』の方向性を示したイメージ概要と重点項目を整理しました。

さらに、４頁以降については、教育・研究・医療・地域貢献・国際貢献・管理運営のカテゴリー毎に、重点項目に対する主要な取り組みを示しております。そのなかでも、地域との共創による取り組みに対しては判りやすく「地域との共創」のタグを付しております。

この『宮崎大学未来Vision for 2040』の冊子は、2040年を見据えた、宮崎大学における今後の展望や方向性を道標として提示したものであり、かつ、今後宮崎大学が、地域の国立大学として、2040年の新たな社会におけるミッションを全うする意気込みを表したものでもあります。

第四期中期目標期間以降に取り組む重点項目

（教育）高等教育機関として

・新たな未来社会に対応し活躍できるリーダーを育てる教育の展開
・地域社会との共創で展開する新たな教育の推進
・多様性の時代に必要な国際性を育む教育プログラム等の推進
・学生を第一に考えた学生支援の提供

（研究）先端研究機関として

・宮崎大学の強み特色を活かした地域共生社会の実現に向けた研究推進
・新たな未来社会に繋がる革新的な研究・技術開発への挑戦
・地域共生社会の実現のために地域と共創する連携研究の推進
・日本の未来を支える卓越した若手研究者等の育成
・全学的な研究支援体制の改革

（医療）高度医療機関として

・地域の特定機能病院としての機能強化
・病院経営の基盤強化と安定した医療提供
・地域との共創で実現する地域医療と県民健康水準の向上
・地域との共創で実現する医療分野のイノベーション創出

（地域貢献）地域貢献機関として

・地域と共創する持続可能な未来の宮崎づくりへの貢献
・地域と共創する地方創生への貢献

（国際貢献）国際貢献機関として

・宮崎大学の強み特色を活かした途上国との連携と国際貢献

（管理運営）高等教育機関として

・新たな未来社会をリードする戦略的・機動的な大学運営の確立
・安定的な財務基盤の確立と戦略的な施設整備

世界を視野に　地域から始めよう
Look at the World, Start with the Community

1　教育

２０４０年の宮崎大学の教育

多様性、柔軟性、国際性が求められる新たな未来社会を生き抜く力を備え、多面的な思考能力と課題解決能力、学部・大学院における専攻分野の高度な専門性を身に付けたリーダーを育成します。

重点項目１

新たな未来社会に対応し活躍できるリーダーを育てる教育の展開

主要な取り組み

▶ 新たな未来社会のリーダーに必要な基盤を育む学士課程教育の推進

基礎教育では、普遍的な基礎知識と併せて、多様で柔軟な教育プログラムを設定し、幅広い視野と課題解決力を醸成するための教育を行います。

専門教育では、自らが専攻分野を通じた課題を設定し、多様な観点・分野から探究できる能力と併せて、新たな時代の変化に合わせた、論理的思考力や社会を支え・改善する能力が身に付く教育を行います。

▶ 新たな未来社会を牽引する高度な人材を育成する大学院教育

これまでの本学の大学院教育で培ってきた異分野融合等の高度な専門教育を継承・深化させるとともに、社会が求める多様性や専門性に対応できる実践的知識やスキル・リテラシーが身に付く教育を行います。

▶ 学生の主体的な学びを伸ばす多様な学習方法の展開

学生の積極的かつ主体的な学びのためのアクティブラーニングを推進するとともに、進化し続ける情報化社会に対応したＩＣＴ教育や、理系・文系を問わないリテラシーレベルの数理・データサイエンス教育を全学生に提供し、新たな社会から求められる資質・能力を伸ばす教育を行います。

▶　１７の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を理解し対処するための教育

ＳＤＧｓを理解し対処するための知識、スキル及び動機づけを学生に提供するＳＤＧｓ教育を行い、地球規模での視野や課題意識を持った学生を育成します。

▶　全学的な教育の質保証と情報公開

全学的な教学マネジメントにより学習支援を強化し、教職員のＦＤ・ＳＤ活動も積極的に取り組み、教育の質保証を担保します。

また、教学に関する教育成果や教育の質に関する情報は、広くステークホルダーに情報公開します。

なお、附属小学校・附属中学校についても、カリキュラムマネジメントに基づいた教育活動を実践し、質の保証を担保します。

▶　多種多様で優秀な学生の受け入れを目指す入試改革

時代の流れや社会の要請に沿った学部学科等の組織再編や改革を常に行い、受験生に魅力的な大学作りを目指すとともに、アドミッションポリシーを明確に示し、優秀な学生を確保します。

また、時代や社会の現状に見極め、多種多様で優秀な学生を受け入れるための入試改革に取り組みます。

▶　ニューノーマル時代に向けた教育ＤＸの実現

最先端のＩＣＴ技術やデジタル技術の活用により、ニューノーマル時代、Society 5.0で実現する社会に対応した大学の教育ＤＸ（Digital Transformation）を実現します。

また、附属幼稚園・附属小学校・附属中学校においても、ＧＩＧＡスクール構想や本学で整備した教育ＩＣＴ環境により、ＩＣＴを活用した教育を積極的に推進します。

重点項目２

地域社会との共創で展開する新たな教育の推進

主要な取り組み

▶ 宮崎県内の高等教育機関との連携教育　地域との共創

これまでの地域社会との連携実績や教育実績を踏まえて、地域に開かれたキャンパス運用を戦略的に実現し、新たな地域社会を担うリーダーとなる地域人材育成を、宮崎県内の高等教育機関とのアライアンス構想により最先端のＩＣＴ技術等を活用しつつ、連携して推進します。

▶ 地域と連携して養成する特定の人材育成　地域との共創

地域が必要とする特定の職業（学校教員、医療従事者、畜産獣医師 等）に就く人材にあっては、地域の人口推移や産業構造等の社会的な要因を的確に分析・把握した上で、地域と連携・協力して実践的な教育を行います。

▶ 地域の企業、自治体、各種団体と連携したインターンシップや公募卒論　地域との共創

これまでの高等教育コンソーシアムの実績を基盤に、地域の企業、自治体、各種団体と連携したインターンシップや公募型卒論等のキャリアアッププログラムを積極的に推進し、地域に定着し、地域の未来を創るリーダーを育成します。

▶ 地域の多種多様な人材に対する教育　地域との共創

宮崎県における産官学金連携の地域連携プラットフォームの一つである「産業人財育成プラットフォーム」を進化・発展させ、地域の多種多様な人材に対するリカレント教育や産業人材育成教育を地域と連携して取り組み、地域の中核人材の育成を推進します。

▶ 宮崎県内の高等学校と連携した教育　地域との共創

宮崎県内の高等学校と連携した教育事業を推進し、高校生が大学教育や先端研究に触れる機会を提供することで、高校生の進路選択・決定を支援し、本学を志望する優秀な学生の確保に繋げます。

重点項目 3

多様性の時代に必要な国際性を育む教育プログラム等の推進

主要な取り組み

▶ 学生の国際性を育む教育プログラム等の構築と推進

多様性や国際性、英語によるコミュニケーション能力が求められる次世代の高度人材を育成するため、学生の海外留学志向を高める教育プログラム等が充実した教育・研究環境を構築します。

▶ 海外の協定校や留学生同窓会との連携強化によるグローバルキャンパスの形成

海外の協定校や留学生同窓会との連携を強化し、アジア圏を中心とした留学生や研究者の積極的な受け入れを通じ、地域の国際化の核となるグローバルキャンパスを形成します。 加えて、日本人学生の海外派遣プログラムの充実を図りGlobal Student Mobilityを推進します。

▶ 地域の日本語教育・国際化支援の拠点としての展開　地域との共創

地域における日本語教育環境の充実や国際化の支援を積極的に推進し，自治体や企業と連携して多文化共生社会を実現します。 また、外国人留学生が安心して勉学や研究に励み、卒業後も地域に定着して活躍できるサポート体制を確立します。

重点項目４

学生を第一に考えた学生支援の提供

主要な取り組み

▶ 多種多様な学生が安心して学べる大学生活環境の提供

障がいのある学生へのサポートを充実させる体制や、多様な性を尊重した支援体制も整備するなど、多種多様な学生が安心して学べる大学生活環境の提供を目指します。

また、ニューノーマル社会における学生のメンタルヘルスケア・健康相談の体制も充実させ、心身ともに健全な大学生活を支援します。

▶ 学生への修学支援の推進

学生の希望や専門領域に応じたきめ細やかな修学支援を行います。学生個々の学習成果の可視化を実現することで、的確・適正な修学支援の実現を目指します。

▶ 学生へのキャリア支援の充実

新たな社会における様々な職業に対して、広く情報を収集し、学生に対して解りやすい形で提供するとともに、就職に向けた様々なキャリア支援の取り組みを展開します。

また、宮崎県内への就職については、県内企業等の魅力発信と併せて、地域企業・自治体・各種団体と連携した取り組みを積極的に展開します。

2　研究

２０４０年の宮崎大学の研究

基礎・基盤研究を尊重し、宮崎大学の強み特色である「生命・環境・エネルギー・食・共生」分野を軸に、地域共生社会の実現に向けた研究を推進し、社会実装を目指します。

重点項目１

宮崎大学の強み特色を活かした地域共生社会の実現に向けた研究推進

主要な取り組み

▶　基礎・基盤研究の持続的な推進

国の発展の源である、教員自らの自由な発想に基づく基礎・基盤研究を尊重し、持続的に推進することで、人類・未来社会の発展に貢献します。

▶　生命・環境・エネルギー・食・共生を柱とした研究活動を実施

本学の強み特色である重点研究分野に関する研究を、地域共生社会の実現に向けた重点領域研究プロジェクトとして積極的に推進し、その成果を宮崎地域から世界へ発信することで、イノベーションの創出や科学技術の発展に寄与します。

▶　多様な知を集結させた異分野融合研究の進化

本学がこれまで積極的に実施してきた農工連携・医獣連携・医工連携の理系異分野融合研究に、更に文系の連携・視点を加えるなど、多様な知を集結させることで、地域共生社会に必要な技術イノベーションを加速度的に創出します。

▶　１７の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を意識した研究

本学の強み特色である研究分野を中心に、ＳＤＧｓに掲げられている地球規模の課題解決に繋がる研究にも取り組み、持続可能な開発目標の達成に貢献します。併せて、ＳＤＧｓ関連研究を可視化し、国内外に発信します。

重点項目２

新たな未来社会に繋がる革新的な研究・技術開発への挑戦

主要な取り組み

▶ 社会変革に繋がるイノベーション創出のための研究推進

Society 5.0が示す新たな社会構築に必要な戦略的基盤技術研究や、カーボンニュートラル宣言や再エネ経済創造プラン等の政府方針や政策に沿った革新的な研究・技術開発に取り組みます。

また、他大学が取り組む研究プロジェクト・コンソーシアム等にも積極的に参画し、大学連携研究も推進します。

▶ 未来を見据えたアジア諸国との研究推進

開発途上にあるアジアの国々や地域の経済発展や持続可能な産業整備のために、海外の協定校や海外の関係省庁等と連携した、革新的な研究・技術開発を実践します。

特に、産業動物防疫リサーチセンター（ＣＡＤＩＣ）を中心としたこれまでの海外機関と積み重ねてきた実績、関係性を更に深化・発展させて、アジア圏の家畜生産と安全性の新技術導入等に寄与します。

重点項目３

地域共生社会の実現のために地域と共創する連携研究の推進

主要な取り組み

▶ 地域産業・地域経済の発展や地域課題解決のためのプロジェクト研究の推進

地域との共創

地域共生社会の実現のために必要な、地域課題解決のためのプロジェクト研究を、自治体・地域企業・各種団体と連携して取り組み、地域産業・地域経済の発展に寄与します。

特に、宮崎の基幹産業である農林畜水産業に関するプロジェクト研究や、エネルギーに関するプロジェクト研究、地域経済循環やまちづくりに関するプロジェクト研究については、多様な分野の教員及び多様な地域パートナーとの連携により、積極的に推進します。

▶ 企業や自治体等との共同研究、受託研究の活性化 地域との共創

企業や自治体等との共同研究や受託研究をこれまで以上に活性化させて、多様な分野の課題解決に寄与します。また、共同研究の成果の一つとしての、大学発ベンチャー企業の設立にも積極的に取り組んでいきます。

▶ 文理融合による実用化・商品化研究の推進 地域との共創

地域経済の発展の一つとして、企業や自治体とのコラボレーションによる、実用化・商品化研究を推進します。実用化等の確実性を向上させるために、デザイン性や販売戦略等も重視し、文理融合型の研究として取り組みます。

重点項目4

日本の未来を支える卓越した若手研究者等の育成

主要な取り組み

▶ 持続的な若手研究者育成と制度改革

これまで本学で取り組んできた、テニュアトラック制度を時代に沿った形で改革して持続させ、日本の未来を支える優秀で卓越した若手研究者を育成します。

▶ 多種多様な研究者を登用するための体制構築

多様性と柔軟性の確保の観点から、実務家、若手、女性、外国籍等の多種多様な研究者を登用できる仕組みを構築し、大学の研究活動を活性化させます。

重点項目５

全学的な研究支援体制の改革

主要な取り組み

▶ 研究推進体制の最適化と人材の確保

これまで本学で取り組んできた、研究推進体制を最適化して強化することで、全学的な研究活動の活性化に取り組みます。併せて、研究活動を効果的・効率的に推進していくために、プロジェクト研究の企画・運営・管理の研究支援業務を行う、リサーチ・アドミニストレーターを適所に配置します。

3　医療（附属病院）

２０４０年の宮崎大学の医療（附属病院）

地域の特定機能病院としての役割を担うとともに、新たな未来社会や地域の医療を担う優秀な医療従事者を育成し、地域・日本・世界の医療技術・医療水準の向上に貢献します。

重点項目１

地域の特定機能病院としての機能強化

主要な取り組み

▶ 宮崎県民に対する高度医療の提供

地域唯一の特定機能病院として、優秀な医療従事者と高性能で最先端な医療機器等を配置し、県民に対して高度な先端医療や質の高い医療を安定的に提供するとともに、宮崎県域の医療水準の向上に貢献します。

▶ 臨床研究の高度化

これまでの臨床研究支援体制を継続的に維持し、医療における疾病の予防、診断並びに治療の方法の改善、疾病の原因及び病態の理解に関する臨床研究を積極的に推進し、高度化することで、日本の良質な医療水準の向上に貢献します。

▶ 若手医療従事者の育成と確保

医療の教育拠点として、医療従事者のための各種教育プログラムを提供し、若手医師等を積極的に受け入れ、優秀な医療人材を育成し確保します。

重点項目２

病院経営の基盤強化と安定した医療提供

主要な取り組み

▶ 医療従事者の働き方改革

質の高い医療提供体制を構築するために、勤務環境の改善を通じ、医療従事者が健康で安心して働くことができる医療勤務環境の整備・改善を促進します。

▶ 病院経営の基盤強化

優秀な医療人材の確保と、質が高く効果的な医療の提供を目指す医療体制を構築することで、病院経営の基盤を強化し、県民に対する安定的で高度な医療提供を実現します。

重点項目３

地域との共創で実現する地域医療と県民健康水準の向上

主要な取り組み

▶ 新たな時代における地域医療の高度化　地域との共創

これまでの地域医療連携体制を活用し、地域診療ネットワークを構築して、新たな時代における地域医療の高度化を図ります。

▶ 自治体等と連携した医療人材育成　地域との共創

宮崎県、医師会及び市町村と連携し、附属病院を地域医療の教育拠点として位置付け医療人材を育成するとともに、併せて、市町村からの寄附講座を活用した、総合診療医等の地域医療実習を充実させることで、地域に定着する医療人材を安定的に確保します。

▶ 宮崎県民の健康水準の向上　地域との共創

自治体や企業等と連携し、新たな時代に生きる全ての県民の健康水準の向上のために、健康増進、心の健康、スポーツ振興の取り組みを積極的に推進します。

重点項目４

地域との共創で実現する医療分野のイノベーション創出

主要な取り組み

▶ 東九州メディカルバレーからのイノベーション創出　地域との共創

東九州メディカルバレーに参画するメンバー企業、宮崎県、市町村、各種団体との連携体制を継続的に維持し、医工連携による積極的な医療機器開発を推進し、宮崎から日本・世界に向けた、医療機器分野のイノベーションを創出します。

▶ 企業等と連携したイノベーション創出　地域との共創

本学のこれまでの研究成果や企業等との共同研究・共同研究講座の連携実績を活かし、ニューノーマル社会や新たな時代に必要な医療分野における様々なイノベーションを創出します。

4　地域貢献

２０４０年の宮崎大学の地域貢献

地域の国立大学のミッションとして、宮崎県や市町村等と共創で、持続可能な宮崎づくり、地方創生、県民の安心・安全で豊かな生活環境づくりに積極的に取り組みます。

重点項目１

地域と共創する持続可能な未来の宮崎づくりへの貢献

主要な取り組み

▶ 宮崎県、市町村等と共創する新たな社会づくりや歴史・文化・芸術等への貢献　地域との共創

宮崎県や市町村等が目指す、自立・循環型の新たな社会の仕組みの構築・推進、Society 5.0で実現する社会の宮崎における実装、歴史・文化・芸術の振興に対して、本学の「知」と多様な「人材」を集結させて助言・指導するなど、宮崎づくりに貢献します。

▶ 次世代の情報インフラやデジタル技術を活用した宮崎の産業改革への貢献　地域との共創

５Ｇ・６Ｇを始めとする次世代の情報インフラ、AIやIoTといった最新のデジタル技術、ロボット等の先端的技術を、宮崎の産業（農林畜水産業、商業、工業、観光業など）に積極的に取り入れる技術協力・支援を行い、宮崎の産業改革・産業振興に貢献します。

▶ 県民の命と生活を守る防災・減災への貢献　地域との共創

地球規模での気候変動に伴う風水害等の異常気象災害、南海トラフ地震・火山噴火をはじめとする未曾有の災害、ウイルス感染等の発生時に県民の命と生活を守る、災害に強いまち・ひとづくりを目指すために、地域の防災・減災対策に専門的視点から助言・協力するなど、防災・減災に貢献します。

▶ みやざきＳＤＧｓプラットフォームへの貢献　地域との共創

宮崎県内各地域でSDGsに関する取り組みを加速させるために設立した、みやざきSDGsプラットフォームに構成機関として参画し、産学金労官連携でSDGsの普及啓発のためのさまざまな取り組みを積極的に推進していきます。

重点項目２

地域と共創する地方創生への貢献

主要な取り組み

▶ 地域が取り組む課題解決や新たな取り組みへの貢献　地域との共創

地域が抱える様々な課題の解決や、新たな取り組みに対して、専門的分野から多面的にアプローチし、的確な解決策や対応策を助言するなど、より良い地域づくりに貢献します。

▶ 先端的技術を活用した生活環境及びＱＯＬの向上への貢献　地域との共創

宮崎県の生活環境におけるAIやIoTといった最新のデジタル技術などの先端的技術の普及に協力し、宮崎県民の生活環境の向上、及びＱＯＬ（クオリティ・オブ・ライフ「生活の質」）の向上に貢献します。

▶ 地域連携プラットフォームによる県内企業への貢献　地域との共創

産官学金で組織する３つの地域連携プラットフォーム（「企業成長促進プラットフォーム」「イノベーション共創プラットフォーム」「地域人財育成プラットフォーム」）の連携を強化し、県内企業の成長、新製品・新技術の開発、人材育成を積極的に協力し、県内企業の活性化に貢献します。

▶ 多様な人材が活躍でき、企業に選ばれる魅力ある宮崎づくりへの貢献　地域との共創

性別、年齢、国籍等の違いや、障がいの有無などにかかわらずさまざまな人が共生し活躍できる宮崎づくりや、都市圏の企業、新規ベンチャー企業及び各種機関等の県内移転を促進するための、インフラ整備や環境整備の検討、学びの場の提供に積極的に協力します。

5　国際貢献

２０４０年の宮崎大学の国際貢献

宮崎大学の研究成果や教育環境を基盤に，国際連携機関等との連携を深めながら、アジア圏を中心とする途上国の発展に貢献します。

重点項目１

宮崎大学の強み特色を活かした途上国との連携と国際貢献

主要な取り組み

▶ 生活環境改善や再生エネルギー等の技術提供

ミャンマーやバングラディシュ等における地下水ヒ素汚染対策に関する実績を活かし、途上国の重要課題とされる生活環境の改善（水環境改善や健康管理等）や再生エネルギーの技術普及に貢献します。

▶ 医療技術・医療インフラの提供

本学の持つ質の高い医療技術（診断・治療・予防等）や医療制度を、アジアやアフリカの途上国に展開するとともに、医療従事者の視察や研修の積極的な受け入れを通じて、それら国々の医療の質向上に貢献します。

▶ 農業・畜産業の技術提供

本学の高い農業・畜産業の技術等をアジアやアフリカの途上国に展開するとともに、農業技術者の積極的な受け入れを通じて、それら国々における食料問題の解決に貢献します。

▶ 国際協力機関や自治体・企業と連携した高度国際人材養成プログラムの充実　地域との共創

国際協力機関や自治体・企業と連携した高度外国人材育成事業を強力に推進し、我が国が抱える人口減少問題の解決と国際的な高度人材循環の活性化に貢献します。

6　管理運営

２０４０年の宮崎大学の管理運営

新しい未来社会において、教育・研究・医療・地域貢献・国際貢献を高水準で維持するために、戦略的で機動的な大学運営と不断の改革を実行し、学びがい、働きがいのある大学づくりを推進します。

重点項目１

新たな未来社会をリードする戦略的・機動的な大学運営の確立

主要な取り組み

▶ 大学運営強化のための徹底したガバナンス強化

新たな未来社会をリードする大学を目指し、大学の機能を最適化かつ最大化するために、学長のリーダーシップを発揮できるガバナンス体制を強化し、大学の運営システム改革や時代に合わせた戦略的かつ効果的な組織再編等に常に取り組みます。

▶ 大学のミッションを達成するための多様な人材の確保と育成

多様な大学のミッションを計画かつ的確に達成するために、職種別の人事システムを再構築し、多様な人材を確保・育成して適正に配置することで、大学運営の継続的な活性化を目指します。併せて、大学運営や経営を担う次世代のリーダー人材育成も計画的に取り組みます。

▶ ＩＲ（Institutional Research）機能の強化・充実と徹底した大学戦略への反映

ＩＲ推進センターの機能強化と、様々なデータの継続的な収集と蓄積、データの分析・可視化に取り組み、それらのデータを大学戦略に徹底的に反映させ、効果的かつ機動的な大学運営を実現します。

▶ 未来社会を視野に入れた多様で柔軟な働き方の導入

Society 5.0で実現する未来社会やニューノーマル時代を視野に、テレワーク等の新たな勤務形態、教員の裁量労働制の適正運用等の勤務形態の最適化と併せて、教職員の福利厚生の見直しを行うなど、個々の事情に応じた多様で柔軟な新しい働き方を検討します。

また、事務業務の効率化や改革を常に行い、時間外勤務の削減を行うことで、教職員のワークライフバランスの向上に努めます。

▶ コンプライアンス推進のための取り組み強化

健全で適正な大学運営及び社会的信頼維持のために、コンプライアンス推進が求められる、職員の倫理行動遵守、ハラスメント等の防止、研究活動の不正行為防止、公的研究費の適正管理、情報セキュリティの確保、個人情報の適正管理等に関する教育や取り組みを計画的に実施し、強化します。

▶ 未来社会への対応を目指した情報化推進と情報セキュリティの強化

Society 5.0で実現する未来社会への対応を目指して、学内の情報環境の最新・最適化、新たなデジタル技術を活用した業務の効率化・電子化を行い、大学全体の業務運営に関するプロセスをデジタル化するＤＸ（Digital Transformation）を推進します。

併せて、日進月歩で巧妙化かつ高度化する多種多様なサイバー攻撃等から大学の情報資産を守るための情報セキュリティの強化を図ります。

▶ 情報発信の強化と説明責任

広報活動については、広報の基本方針や戦略に基づき、様々なコンテンツや新たなデジタル技術を活用し、広く地域社会や国内外に本学の魅力や特色を解りやすい形で情報発信するとともに、公的使命を有する国立大学として、誠実かつ丁寧な社会的説明責任を果たします。これらの情報発信の強化等により、地域社会や国内外からの本学に対する社会的な必要性と信頼性を獲得し続けます。

重点項目２

安定的な財務基盤の確立と戦略的な施設整備

主要な取り組み

▶ 財源の多様化による財務基盤の再構築

持続的な大学運営を担保するために、外部資金の獲得増や基金やクラウドファンデング等、財源の多様化による安定的な財務基盤を再構築します。また、ネーミングライツをはじめとする、大学の資産を活用した新たな収入源の確保等を検討し、積極的に推進します。

▶ コストの見える化と学内資源の適正再配分の仕組み整備

予算の効果的かつ適切な配分を目指して、大学の業務に必要なコストを個別に分析・評価し、見える化を図ります。また、その結果と費用対効果を推し量ったうえで、全学の学内予算を適正再配分する仕組みを整備するとともに、不断のコスト削減に努めます。

▶ イノベーション・コモンズ（共創拠点）を目指したキャンパス整備

地域の様々なステークホルダーと創造活動を展開する「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」を目指し、施設の総量の最適化と重点的な整備の観点を含むキャンパスマスタープランを策定するとともに、その個別の整備については、「戦略的リノベーション」によって機能向上と長寿命化を図り、安全・安心で質の高い教育研究環境の実現に取り組みます。

また、サステイナブルな社会構築のための先導的な役割を果たすことや、甚大化する災害に対しても安全に教育研究活動を継続できるよう、必要となる全ての施設・ライフラインを強靭化しキャンパス全体のレジリエンスを確保します。

▶ 戦略的な施設マネジメント

教育研究活動に要する財源を確保しつつ、良好な教育研究環境を維持・確保するため、ア）施設マネジメント推進のための仕組みの構築、イ）施設の有効活用、ウ）適切な維持管理の３つの観点から、経営的な視点による戦略的な施設マネジメントの取組を推進します。

▶ 温室効果ガス排出抑制の計画的実施

地球温暖化対策に関する、カーボンニュートラル宣言等の政府方針や国際情勢を踏まえ、温室効果ガス排出抑制のための計画を策定し、具体的な削減策を実行して、計画的な温室効果ガスの削減によりSDGｓにおける関連目標の達成に寄与することを目指します。

宮崎大学
University of Miyazaki